

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和7年10月22日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	林業振興・環境部 自然共生課
-----	-----------	------	----------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県牧野記念財団	指定期間	令和6年4月1日～令和9年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200番地6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的※を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の収受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>※「牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供する」(高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約20.5ha(うち7.8haを利用)、駐車場(普通車など258台、バスなど6台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、植物研究交流センター、土佐寒蘭センター、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料／一般850円(高校生以下無料)、団体750円(20名以上)、年間入園券2,500円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)／映像ホール1,470～1,890円、アトリエ実習室520～630円など 撮影料／業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,880円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,780円</p>		
職員体制	園長:1人 副園長:1人 プロパー職員:25人 契約職員:19人 (嘱託職員:1人含む) パートタイマー:34人 合計:80人		

「職員数は令和7年4月1日現在」

2 収支の状況

単位:千円

		令和5年度(決算)	令和6年度(決算)	令和7年度(予算)
収入	県支出金	386,518	508,157	582,739
	使用料・手数料	231,192	137,003	91,451
	その他	53,705	17,194	7,386
	収入計 (a)	671,415	662,354	681,576
支出	事業費	60,713	44,018	50,206
	管理運営費	344,415	288,203	310,002
	人件費	266,260	281,205	321,368
	その他	27	48,928	0
	支出計 (b)	671,415	662,354	681,576

3 利用状況

	令和5年度(実績)	令和6年度(実績)	令和7年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	466,200	291,157	220,000
②利用者意見等の反映	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や教室開催時にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握して、より効果的かつ効率的な広報手段を検討し、次回の企画展などに活かしている。特に、「らんまん」の主人公・榎野万太郎の部屋をイメージしたコーナーに設置したアンケートでは、782人から回答があり、満足度は97%が「とてもおもしろかった」「おもしろかった」と回答、理解度は95%が「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答し、高い評価が得られた。 キッズラボでは、幼児向けのプログラム実施に対する要望が多く寄せられたため、令和6年度に新たに幼児向けプログラムを追加し、より幅広い層に園の魅力を発信するとともに、学習の場としての充実を図った。 		
③その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に放送された「らんまん」を契機とした植物への関心や牧野富太郎博士の認知度の高まりを維持するとともに、新たなファン層を拡大するため、アフター「らんまん」の取り組みとして、多彩なゲストをお迎えしたイベントを実施し、園の魅力を発信した。 令和6年10月から園内の最新の見どころの植物が検索できるデータベースの運用を開始し、植物の魅力をより多くの人に伝え、植物への関心を高めるための取り組みを積極的に行っている。 市町村や企業と積極的に連携し、生物多様性の保全活動を一層促進するとともに、自然環境に興味を持つ人材の育成に努めている。具体的には、野外調査やフィールドワークを開催し、参加者に実際に環境保全に取り組む機会を提供している。これらの活動を通じて、持続可能な社会の実現を目指している。 		

4 令和6年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	<ul style="list-style-type: none"> 法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われている。 毎週、課長以上による会議を行い、事業の効果的な実施方法や協力体制について検討するとともに、情報共有を行っている。 植物園事業の運営に協力しているボランティアに新たに16人が加入し、来園者の疑問や不安に対するサポート力が向上した。また、ボランティアゼミナールを開催し、外部講師を招いてボランティア同士や職員との交流促進の機会を確保し、全体的な連携が強化された。
②利用者サービスの維持向上	<ul style="list-style-type: none"> 牧野富太郎博士の業績や研究活動など園の様々な活動を深く知っていただくため、イベントや企画展などについて報道機関に計14回プレスリリースを配信し、年間186回の取材・撮影対応を行った。また、SNSなどのデジタルコンテンツを活用した情報発信を実施し、植物園の魅力を伝えた。 レストランの抜群な眺望や人気の地産地消の洋食メニューなど、店舗の魅力を各メディアで積極的に発信するとともに、夜間開園時には特別営業を行い、季節や催しに合わせた特別限定メニューを販売するなど、来園者の満足度向上につなげた。 園内のおすすめルート、企画展やイベント開催場所などの問い合わせが多かったことから、ボランティアスタッフと連携しながら案内体制の充実を図った。
③事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 栽培植物の管理において、古くなった植物ラベルを取り換え、他の園地と色を統一したことで、入園者は植物の識別や観察が容易になり、園内での学習や鑑賞体験が快適になっている。また、長江圃場で管理している植物は、温室や土佐寒蘭センターなどで個々の植物の開花に合わせて一般公開を行い、温室ではラン科植物を中心に460鉢、伝統園芸植物は372鉢をテーマ毎に展示した。 研究分野では、研究活動の成果として原著論文20件を公表し、その他の出版物として10件を作成した。また、学会発表を18件行い、講演会を30件実施することで、研究成果を広く伝える機会を確保した。これにより、専門分野における知識の普及や研究の認知度向上に寄与し、全体的な研究活動の活性化につながった。 薬用植物研究では、大豊町で小林製薬と連携し、薬用植物の試験栽培を実施している。花期には観光資源として活用しながら系統保存を行う取り組みを開始するなど、地域の特性を生かした活動を推進している。また、栽培や加工に関する一連の技術開発を行い、産地形成に向けた取り組みも積極的に進めている。これにより、地域経済の活性化と薬用植物の持続可能な利用が図られている。 応用開発研究では、1研究機関、11大学、8企業と連携し、有用植物の探査で得られた膨大な試料エキストライブラリーを基盤とした共同研究を推進した。この連携により、植物情報の効率的な提供体制を構築し、栽培試験で得られた植物サンプルの迅速な分析を可能にした。
④収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携により、「らんまん」を契機に高まった植物への関心や牧野富太郎博士の認知度を維持し、年間入園者数は過去2番目となる29万人を記録して、利用料金収入は当初予算から56,530千円増加した。
総合評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ol style="list-style-type: none"> 利用者数は目標を大きく上回る29万人を記録し、「らんまん」を契機に高まった植物への関心や牧野富太郎博士の認知度を維持するとともに、新たなファン層の拡大に努めている。これらは牧野植物園のブランド力向上と魅力ある取り組みの成果といえる。 アンケート調査では高い満足度が示されているものの、多様な来園者の意見収集が今後の課題である。アンケートは、現状の紙媒体中心からデジタル化を推進し、若年層を含む幅広い層に対応できるよう体制整備が求められる。紙とデジタル双方のアンケートを活用し、得られたデータをサービス向上に効果的に活用することが望まれる。 海外客誘致では多言語対応強化やガイド事業の付加価値向上が不可欠であり、国際的な視点を踏まえた魅力の向上を目指すことが重要である。SNS等による来園者動向の分析や多様なニーズの把握・対応も必要である。今後は「らんまん」終了後の状況を踏まえ、持続的な魅力向上と利用者満足最大化に向け、デジタル活用や地域連携を一層深化させることが期待される。 全ての評価項目で目標水準を上回る成果を挙げており、優れた管理運営体制が確認できる。今後も現状に満足せず、さらなる質の向上と持続可能な運営を目指して、積極的に取り組みを継続してほしい。